

2012 年度春学期授業アンケートのまとめ

2012 年 11 月 14 日

F D 委員会

2012 年度春学期の授業アンケートは、2012 年 7 月 11 日～7 月 30 日の間に実施されました。その後アンケート結果に対して、各教員からコメントを提出していただきました。以下、これについて分析を行います。

(1) 数量的把握

1 アンケート回収率

今回のアンケートの実施状況は以下のとおりです。

表 1 アンケート回収率

区分	受講者数	回答者数	回答率(前年春比+)
全体	18,934	11,396	60.2%(2.1)
座学科目	13,688	6,929	50.6%(2.0)
英語科目	2,592	2,171	83.8%(0.4)
中国語科目	567	462	81.5%(▼1.9)
朝鮮語科目	359	320	89.1%(6.3)
日本語科目	153	150	98.0%(6.2)
フランス語科目	46	26	56.5%(▼31.9)
ドイツ語科目	63	32	50.8%(▼13.4)
コンピュータ実習科目	482	441	91.5%(1.9)
スポーツ実践科目	475	417	87.8%(5.5)
基礎演習科目	465	408	87.7%(1.3)
教養演習科目	44	40	90.9%(7.6)

全体的にアンケートの回収率が改善しています。前年度春学期比で 2 ポイント、昨年秋学期比でも 4.9 ポイント上昇しています。もちろん、60%という回収率それ自体は必ずしも高い数字ではありませんが、改善している点は評価できます。特に、座学科目の回収率が初めて 50%を超えました。さまざまな要因がありますが、GPAの学年進行により、登録だけして授業に来ない学生が少なくなり始めているのも一因でしょう。少しずつでも上昇している点を評価すべきです。

演習、語学、実習は高い出席率を誇っているうえに、さらに上昇気味です。授業の充実度がうかがえます。ただし、フランス語、ドイツ語などの第二外国語系科目で、回収率が

大幅に低下しているのが気になります。アンケートの回収率だけが悪く、学生の実際の出席率はよいのであれば問題ありませんが、もし学生があまり授業に出席していないのであれば、その要因を探ってみる必要があります。

2 各項目の点数

各アンケート項目の点数は表2のとおりです。昨年の春学期のスコアと比較すると、すべての項目で点数があがっており、項目2を除いて4点台となっております。この数字が表す限りにおいて、授業改善が少しずつ進んでいるといえます。

表2 授業アンケート全体スコア

2012年度前期 授業アンケート(全体)

下関市立大学

受講者数	18934
回答者数	11396

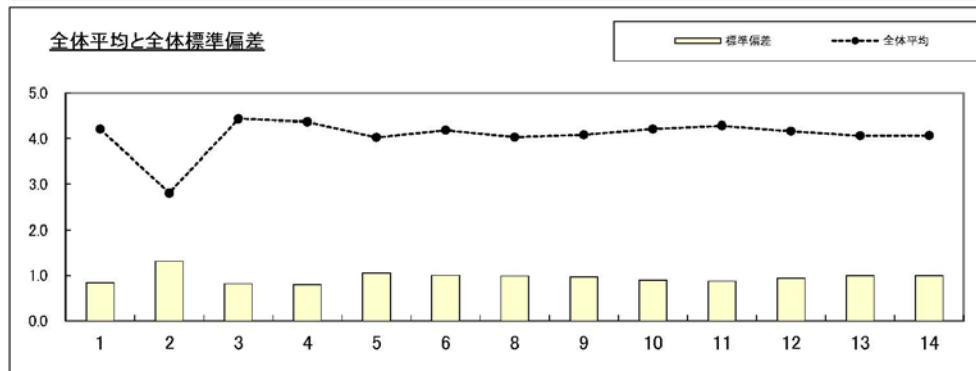
学年				
1年	2年	3年	4年	無効回答
4998	3156	2370	706	166

学科			
経済学科	国際商学科	公共マネジメント学科	無効回答
4990	4932	1207	267

あなた自身について										
番号	設問文	当科目の標準偏差	当科目の平均点	各マークの回答数					有効回答	無効回答
				5	4	3	2	1		
				そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思う	そう思わない		
1	この授業にはどれくらい出席しましたか。	0.84	4.21	100%	90~99%	70~89%	50~69%	49%以下	11388	8
2	この授業に十分に予習あるいは復習をしながら臨みましたか。	1.32	2.80	必ず	ほとんど	半分くらい	少しだけ	していない	11373	23

授業運営について										
3	この授業の開始時間は守られていましたか。	0.82	4.43	6667	3436	910	241	128	11382	14
4	この授業は、基本的にシラバス(評価方法を含む)にそって運営されていましたか。	0.80	4.36	6023	3803	1319	151	88	11384	12
5	板書やビジュアル資料などがわかりやすかったですか。	1.06	4.02	4715	3613	1981	701	362	11372	24
6	声の大きさ、明瞭さ、速さなどの点で、教員の話し方は聞き取りやすいものでしたか。	1.00	4.18	5564	3343	1578	548	271	11304	92
7	授業内容の難易度について、どのように感じましたか。			難しすぎた	少し難しかった	適切であった	少し簡単すぎた	簡単すぎた	11386	10
8	学生の反応や受けとめ方などに配慮しながら授業は進められていましたか。	0.99	4.03	4426	3932	2194	585	248	11385	11
9	教科書等を含め授業中に用いられた教材や資料は役に立ちましたか。	0.97	4.08	4650	3926	2123	425	248	11372	24
10	教員は、私語を注意するなど、静かな授業環境を保つための努力をしていましたか。	0.90	4.21	5282	3842	1782	303	164	11373	23
11	授業に対する教員の熱意は感じられましたか。	0.87	4.28	5700	3724	1546	265	144	11379	17
12	担当教員は質問しやすい雰囲気をつくるとともに、質問や相談は丁寧に対応していましたか。	0.94	4.16	5089	3732	1995	333	203	11352	44

総合評価について										
13	授業を履修して、この授業科目への関心を深めることができましたか。	1.00	4.06	4488	3956	1980	440	323	11187	209
14	総合的に見てこの授業に満足できましたか。	1.00	4.07	4555	3872	1983	465	302	11177	219



(2) 自由記述欄の分析

自由記述欄へのコメントをまとめてみますと、昨年来指摘している点（下記1～5の点）が継続した課題であることは同じですが、今回とくに目立っているのは、教員の思いと学生の受け取り方のズレについての記述です。

- 1 学生の多様化、学力格差への対策が急務となっています。
- 2 初年次教育の整備が早急に求められています。
具体的には、
 - ①学習方法の基礎を育成すること
 - ②入門科目を整備すること
 - ③初年次学生のケアを意識すること
 - ④初年次配置の科目を再編すること
- 3 授業態度の悪化に対する記述が増えています。
 - ①出席率だけでなく、遅刻の常態化も問題視する声が多くあります。
 - ②学生のマナー（私語、携帯操作など）と対応力の低下を嘆く声が聞こえています。
 - ③組織的対応と個人的対応、それぞれを分けて整備する必要があります。
 - ④4年生の就職活動欠席にどう対応するか議論する必要もあります。
- 4 自ら学ぶ姿勢をどう育てるかが重要な課題です。
学生にどのようにして予習復習をさせたらよいかという悩みが多く語られていますが、語学を中心にさまざまな改善の取り組みがみえます。
- 5 授業改善のために、受講人数の更なる制限が求められています。
- 6 教員の意識と学生の受け取り方のミスマッチ

以下に個別の事項ごとにまとめます。

1 学生の多様化、学力格差への対応について

1) 難易度設定についての戸惑い

同じテキストを用い、同じ教え方をしても、「よくわかった」と、「難しすぎる」の両極端の反応があることに対する戸惑いが多く記述されていました。わからないのなら質問すべきだという声もありましたが、学力格差のなかでは、質問する力もない学生もいます。大学のあるべき姿と現状とのギャップにどのように対応するか、教員の側で変化する学生の実態への対応が求められるのが実情のようです。

2) 教科書・教材の選定・利用方法をめぐって

今回指摘が多かったのは、教科書・教材の難易度設定についてです。比較的難しいと思ったが、学生の反応は良かったという例と、やはり難しすぎるといわれたという例が紹介されていました。これは後述の学生の意識との関係もありそうです。

3) 学生のどのレベルに焦点をあてるのか

多様化する学生のどこに焦点をあてるべきか、という議論はよくあります。それについて、コメントのなかで参考になる記述に出会いました。それは、学生の 25%が「適切であった」、50%くらいが「少し難しかった」、25%くらいが「難しすぎた」という比率であったが、クラスの水準などを考慮すると、これでもよいと考えられるという指摘です。われわれは「適切であった」が多い方がよいと考えがちですが、状況の中では、少し難しいと感じるのがよい場合もあるようです。

どのようなクラスかを意識しつつ、それぞれの受講生にあったテキストとは何か、教え方とは何か、多様化する学生の層ごとに指導方法を研究する必要があるでしょう。

4) リメディアル教育の必要性

コメントのなかには、高校までの知識の差が大きく、大人数の一つの授業では対処できないという声がありました。2 単位化に伴い習熟度別に授業を分ける、あるいはリメディアル・クラスを新設するなどの対策が求められています。

5) 受講者数の制限

多様化する学生に対処するには、大講義では無理であるため、受講者数を制限すべきであるという声がありました。

6) 教材への意識

今回、教育内容に関するコメントで最も多かったのが、教科書を買わない学生が多いという指摘でした。もちろん、それが多数とは思えませんが、増えているのは事実のようです。具体的には、3300 円の教科書に対して、「高い」ので買わないと屁理屈を述べる学生や、何度注意しても教科書を買わずに持ってこない学生がいるという問題点が指摘されていました。

教員の側での教科書の使い方についての工夫も必要でしょうが、学生の一部には、教科書についての意識が非常に弱くなっていることがわかります。また、教科書を読んできていることを前提に授業を進めようとしても、その作業をほとんどしていないため、学習効果が小さいという事例も報告されていました。一方、授業中に配付したプリント、工夫して作った資料、うまく準備して上映した視聴覚資料が大変わかりやすかったという評価を受け、効果があったという事例も紹介されていました。

学生の「学び」に対する意識が変化しているなかで、教材についての研究も必要になっているようです。

2 出席率の改善について

今回のコメントでは、出席率の改善について、意識して記述されているものが多くありました。

1) 出席率と回収率の関係について

アンケート回収率が 4 割程度の科目はかなりありましたが、そのいくつかでは、実際に

は学生は出席しているが、アンケートを書いていない学生が多く、出席率自体はそれほど悪くないというコメントが寄せられていました。

GPA制度の進行も影響しているのですが、履修登録だけして試験を受けない学生の数が多いという指摘は、以前に比べると減っているようです。一度、履修登録者、定期試験受験者、アンケート回収率の比較を試みたいと考えております。

2) 出席率改善の試み

出席をとることで出席率を改善することについては、これまでも語られてきましたが、その方法は多様にあるようです。先生が出席を取らずに、グループの自主チェックシステムを利用したり、ミニッツペーパーをうまく活用したりすることで改善されている例が報告されていました。

3) 厳しい対応で効果があがった例とチェックテストが機能した例

出席改善については、非常勤の先生から次のようなコメントをいただいております、参考になります。

「出欠を厳しくしたことが意外に高い評価をうけていた。一部に出席不足で失格にした学生や代返がバレて叱責されて不平不満をいう学生もいるようだが、出席率は上がり、遅刻者も大幅に減った」

逆に、大人数の講義で苦勞されてこられた先生からは、次のような方策が紹介されています。「いつも管理がたいへんなので、今回は出席をとらなかつた。その割には意外と出席率が高かつたのは、チェックテストを随時実施したせいかな。今後も行っていきたい」。

さまざまなよい実践例を紹介することで、出席率の向上を通じた成績の改善の努力を行っていききたいと考えております。

4) 就職活動による欠席増加への対応策の必要性

これは前回指摘した問題と同様ですが、就職が厳しくなっている分、学生の就職活動期間も長くなっており、問題がより大きくなっているといえます。ほとんど出席せずに単位をくれと主張する学生の声も紹介されており、一度4年生の教育のあり方を議論する中で、この問題についてきちんと議論しておくべきだと思われまふ。何らかの自主的な学習時間を確保させ、その成果を指導・評価するなどの対策が必要かと思われまふ。

5) 学生の意識と集団的討議の必要性

遅刻、欠席の常態化については、非常勤の先生から、前回同様下記のような厳しい指摘を受けています。

「貴学には欠席する学生が多い。『〇〇回までなら大丈夫』と計算して休んでいるようだが、復習テストや授業の理解度がクラス点に反映されることを何度伝えてもその点は忘れてしまうようで、成績が極端に悪くなる場合があるのが残念だ。

今学期は、授業を一回も出ずに『課題を特別に割り当て、単位を出してください』と交渉してきた学生がおり、他の授業でも出席しなくても同じようにして単位をもらっているとされた。私は教務規定に沿って判断し、課題は与えなかつたが、このような学

生がいることで『欠席しても単位がもらえる』という噂が回っているのかもしれないと考えさせられた」

こうした事態がどこまで一般化しているかは不明ですし、4年生の場合は就職活動との絡みもあるでしょうが、学修指導の関係上、授業・出席率・評価との関係については、やはり集団的にある程度の合意づくりが必要ではないかと思われます。

3 遅刻の常態化の改善について

遅刻の常態化についての指摘も、前回同様の傾向です。先生方も苦慮されており、さまざまな努力をしているが、どうしても改まらないという声が寄せられていました。また前回の指摘同様、朝 1 時限目の授業では遅刻が多いという記述もありました。ただし、事実の記述としてはそのとおりで、1 時限目だから仕方ないという教員側の意識の改善は求められるでしょう。高校までは当たり前のようにできていることでもあり、かつ社会に出てからも定時出勤が当たり前のなかで、大学生だけがそれができないというのも変な話で、より前向きな形で指導することが求められています。

本来は個人の意識の問題である遅刻や欠席ですが、なんの対応策もなく放置しておくわけにはいかないでしょう。認識と議論の積み上げが必要です。

4 学生の受講態度の悪化について

遅刻の常態化については上記のとおりであり、私語の多さについても、これまで同様に繰り返し指摘されています。私語については、今後、さまざまな方法を用いて厳しく注意するというコメントと、あえて注意しないで見てみたいというコメントがありました。先生それぞれの工夫のあとがみえます。

また、上述のとおり、教科書を持ってこない学生が多いこと、また何回注意してもそれが改善されないという指摘は前回と同じです。

さらに、今回目を引いたのは、授業中にトイレに行きたいと申し出る学生の数が増えたという指摘でした。この指摘をどこまで一般化できるかについては検討すべきですが、その先生は授業態度の悪化という点で指摘しておられました。もちろん、やむを得ない場合もありますし、休み時間にトイレにいけないのか、いかないのか、さまざまな場合があります。

5 自主学習の強化への取り組み

自主学習の不足は今回のアンケートでも明らかですが、前回にくらべると若干改善しています。これまで、この点を強調してきたこともあり、それぞれの先生が改善をめざして努力されています。

とくに、語学の先生方のなかでの改善努力は大きなものがありました。毎回、宿題をだし、やってきたかどうかきちんとチェックする作業をして努力されている姿が目に見えま

した。

また、ノート提出などを自主学習として位置づけており、それに対して学生自身きちんと対応しているにもかかわらず、学生自身はそうとは受け取っておらず、アンケート上にそれが反映しないことがあるという指摘がなされていました。

学生が自ら学ぶ姿勢をつけるためにどうしたらよいか、即効薬はありませんが、それぞれの教員が改善に努めていることだけは確かです。その経験を共有する場をさらに充実させ、全体として学生がより自主的に学ぶ場を増やす以外にはないでしょう。先生方の改善の努力の継続をお願いするのみです。

6 留学生との交流による刺激

演習や講義に留学生がいて、その留学生が積極的な役割を果たしている場合には、学生たちに大きな刺激となり、議論が促進され、集中度が高まっているという経験が報告されていました。本学には、国際交流の機会を求めている学生も多く、さらにこの面での活動を充実する必要を感じました。

7 基礎演習についてのコメント

今回のアンケートでは、基礎演習について多くコメントが寄せられていました。総じて好意的で、なかにはアンケートの評価が5となるようにうまくいったクラスの例が紹介されていました。そうした高評価の大半は、学生たちの仲間づくりがうまくいったことに支えられています。逆に、学生のグループ作りがうまくいっていない基礎演習では、問題も生じたということが書かれていました。

多く寄せられていたのは、フィールドワーク、エクサカーションが非常に好評で、それ以降、クラスがうまく回り始めたという例です。また、グループワークも非常に好評であったというコメントが複数寄せられています。

プレゼン大会については、賛否両論ありました。学生は喜んでいましたが、教員としてはそれだけでいいかどうか、再度検討すべきではないかというものです。また、これへの参加を途中で決めたことにより若干の混乱が生じたゼミもあったようです。年度初めに、プレゼン大会をどう位置付けるか、再度検討し、徹底しておくことも必要でしょう。

また、基礎演習でもサブゼミを組織させてうまくいった例、非常に高水準のレポートができたので、「基礎演習レポート集」をつくり配布した例も書かれていました。

根本的なところでは、どうも半期では絶対的な時間が不足しているのではないかという声がありました。

気になったのは、うまくクラスになじめずに、担当の報告も放棄する学生がいたという事例でした。少人数教育の場合でも、どうしても取りこぼしてしまう学生がいます。このような困難な事例について、経験の交流が必要になっているのではないのでしょうか。

さらに一部の先生からは、ただでさえ時間が不足するのに、ハラスメント講習や図書館ツ

アーなどに時間が割かれるのは困るというご意見もありました。

8 教員の思いと学生の受け取り方のミスマッチ

学生が多様化してくると、教員の側に戸惑いを感じさせる事例も増えてきます。たとえば、今回は以下のような事例に出会いました。

1) 教科書を丁寧に説明しているが、学生は「先生は教科書を読んでいるだけ」ととらえている場合があること。

2) フィールドワークで授業時間枠を超えて、ある程度広い地域に連れて行くが、無理やり連れて行かれているという不満があること。

3) 中間テスト、予習・復習の度重なるすすめ、時間外の補習などにもかかわらず、学生の学習が不足していて思ったように成績が伸びないし、レポートのできもよくないなかで、他方では「教科書を利用していない」などのようなコメントが返ってくるのは、どうも納得ができない。

4) 授業中の資料が役に立たないという学生のコメントがある。学生は個別マニュアル的な資料を求めているようであるが、教員として理解してほしいのはより一般性のある内容である。この点での理解が共有できていない。

5) 板書についてわかりやすく書いてほしいという希望があったので、大きくかつシンプルに書いてみたが、それでもわかりにくいという声があった。どこまでシンプルにすればよいか悩む。

6) 学生の理解を促進するために、「閑話休題」として時事講評を入れているが、「内容から逸脱した話が多い」というコメントが寄せられるのは心外である。

7) 「もっと分かりやすく」とか、「結局何が言いたいのか」というコメントがあった。授業では「結論」ではなく、多面的に考えるための仕掛けを意識して設定していたつもりだが、その意図が十分に伝わっていない。

教員の側ではわかりやすく、あるいは熱心に教えようとして、工夫していることも、受け手である学生の側に十分な理解がない場合もあります。学生側の理解を得ることがなによりも大事ですが、授業へのモチベーションづくりに多くの時間をかけることが大事です。

9 語学科目について

昨年からプレイスメント・テストに基づく、習熟度別のクラス分けがなされていますが、これがうまく効果を発揮しているという声と、2年生クラスでもう少しクラス分けをうまくしてほしいという両方の声がありました。担当されるクラスで、感じ方も異なるようです。ただし、同じ基礎クラス内でもさらに差があることに悩んでいるという声は前回同様です。

10 カリキュラムに関係するところ

公共マネジメント入門を、経済学科の学生が多数受講していたが、これでよいのかとい

うコメントがありました。制度、履修指導上の問題として検討が必要ですが、すでに来年度に向けて改善策を講じています。

11 アンケートの実施について

アンケートの実施方法についてもご意見がありました。

学生のアンケート疲れがあるので、すべての科目を毎回アンケートする必要があるのかどうか、疑問がだされていきました。

また、アンケートの質問事項の不適切を指摘したコメントがありました。これについては、5年間同じ項目で続け、その後見直すことにしていますので、不適切な項目を補足するためには、各自追加的なアンケートをお願いします。

また、根本的なところでは、前回に続きアンケートの廃止を求める声も出されていきました。「元来、授業改善のための授業アンケートであったはずなのに、学生に対する不信感を抱かせ、教員の意欲を失わせる結果になるのなら、授業アンケートそのものをやめた方がいい。授業アンケートを継続することによって、むしろ授業改善が滞ってしまう」。

当面は、実施方法と活用方法の改善を模索しながら、学生の率直な意見を聞く機会として位置づけ、活用したらどうだろうかと考えています。従来の学生アンケート以上に良い方法があり、学生の声を聴く代替措置のご提案があれば、ぜひお寄せください。

(3) 施設改善についての各部署からの回答

学生のコメントに対して、各部署からは以下のような回答が寄せられています。

1 教務班から回答

【教室設備について】

プロジェクターやスクリーンなどの音響・映像機器については、以下の教室で更新を行い、改善しています。(A-101、A-201、A-301、A-302、B-101、B-203、B-303)

マイクの混線もチャンネル調整により解消しています。

B-101、B-203 については、スクリーンを斜めに設置し、黒板と併用できるようにしています。その他の教室については、併用できる設置も検討しましたが、座席数の関係で対応できませんでした。

新規の機器については、先生方への講習をはじめ、マニュアルの設置をするなど操作説明にも努めています。

また、A 講義棟の中教室については、2014 年 9 月まで現在の機器を使用します。

教室貸出で配線変更をされるなどして、機器利用に支障が出たため、一部教室では蓋の取り付け工事を実施しました。

LL 教室の PC については、来年度更新予定です。これにあわせて、PC 設置を 1 教室にする予定です。

【教室割について】

教室割については、皆さんからの要望にできるだけお応えすべく、登録者数を見ながら、同じ時限の中で教室移動をお願いするなどして対応しています。授業時間帯によっては、200名を超える講義が複数重複し、受講者数が教室定員ギリギリまでとなる場合もあります。

現在、受講者数が200名を超える授業については、A-101(300名)、A-301(400名)、B-303(500名)を中心に配置しています。

履修制限や時間割調整などもして、今後も可能な限り対応します。

その他、皆さんからのご意見を参考にしながら、改善できる点は委員会等で検討しながら進めていきたいと思っております。

2 庶務班からの回答

【A講義棟のエアコンについて】

A講義棟のエアコンについてはオン・オフ及び温度調節が可能となっておりますので、省エネルギー及び地球環境保護の観点から、室温28度となるよう、各自で調節を行っていただき、適正な運用を行っていただければ幸いです。

なお、スイッチをオンにしてから90分で切れるように設定しておりますので、必要な場合は再度スイッチをオンにして下さい。ただし、授業終了後は空調及び照明のスイッチを必ず切っていただきますよう、ご協力をお願いいたします。

【B講義棟のエアコンについて】

B講義棟のエアコンについては、本年度不具合があることが判明したため、修繕を実施いたしましたので、今後は適正な温度管理が可能であると考えています。

なお、暑すぎる、あるいは寒すぎる場合は教員を通して事務局総務グループ庶務班にご連絡いただければ対応いたします。

【本館のエアコンについて】

本館のエアコンについて、暑すぎる、あるいは寒すぎる場合は教員を通して事務局総務グループ庶務班にご連絡いただければ対応いたします。

【照明機器の不具合について】

蛍光灯、安定器等の交換を随時実施しておりますので、不具合を発見した場合は事務局総務グループ庶務班にご連絡いただければ対応いたします。

【A講義棟の机の間隔について】

机のサイズが小さいというご意見を受け、大きめの机を配置したことにより間隔が狭くなっていますが、座席数を減らすことはできないので、配置を工夫するなど対応してい

ただければ幸いです。

【B-301のコンセントについて】

コンセントの数が1つしかなく、大変そうというコメントについて、必要であればテーブルタップを設置します。

【B-302教室の机について】

B-302教室の机が小さいというコメントについて、当該教室には長机を設置しております。おそらく人数が多いために個々人が使えるスペースが少ないという趣旨だと思いますので、担当教員に学務グループ教務班から使用教室が適正かどうかを確認させていただき、必要性が認められ、かつ他に適当な教室があれば教室変更を含めて検討したいと考えております。

【A-204教室の暗幕について】

A-204教室の暗幕について、不具合は確認できませんでしたが、問題がある場合は事務局総務グループ庶務班までご連絡下さい。

【ATMの設置について】

現在はコンビニエンスストアでも手数料無料で取り扱っているなどのことから、実現可能性はかなり低いと考えております。

【B講義棟横の喫煙所について】

教室に煙草の煙が入る、あるいは喫煙所の話し声が聞こえる等のコメントについて、喫煙場所の移動も含めて検討しておりますが、現時点では有力な候補地が見つかっておりませんので、引き続き学生のみなさんのご意見も伺いながら検討していきたいと考えております。

【B講義棟のエレベータについて】

エレベータが1基しかないというコメントについて、健康増進及び省エネルギーの観点から、なるべく階段をご利用下さい。

【体育館の増設について】

今年度武道場の増築を実施する予定ですが、それ以外の増設や増築について、現時点で必要性はないと考えています。

【体育館のエアコンについて】

サブアリーナにはエアコンを設置しておりますので、行事等が行われる場合は使用可能となっておりますが、運動する際のエアコン使用の必要性はないと考えております。

水分補給などの熱中症対策については各自で行っていただき、体調や気分が悪くなりそのような場合は早めに健康相談室をご利用下さい。

【グラウンドについて】

除草などについては随時行っておりますが、本年度一部ではあります表土の入れ替えを予定しておりますので、ある程度改善できると考えております。今後は体育会所属の学生の皆さんにもご協力をいただきながら、維持管理に努めたいと考えております。

【教室への時計設置について】

各教室への時計設置の必要性について、今後学生の皆さんのご意見も伺いながら検討していきたいと考えております。

【ダンゴムシについて】

B-101 教室にダンゴムシが多いとのことですが、もしダンゴムシの発生が目立つようでしたら事務局へご連絡ください。対応いたします。

3 経営企画班からの回答

【WiFi 環境(無線 LAN)の増設について】

利用状況や、導入による授業への影響などを考慮しながら、今後検討していきたいと思っております。

【コンピュータ実習室・ヘッドホンの落下について】

ヘッドホンを掛けるフックを机の側面の奥の方に移動しました。これで落ちにくくなると思います。

【コンピュータ実習室・カラープリンタの設置について】

研究・就職活動での利用においては、モノクロ印刷で十分カバーできると考えています。ご了承ください。

【コンピュータ実習室・パソコン設定の保存について】

不特定多数の利用者がいつでも同様の環境で操作ができるよう、パソコンの設定を保存できないようにしています。ご了承ください。

【コンピュータ実習室・印刷トラブルについて】

印刷範囲や、印刷物の拡大・縮小の設定などが原因であると考えられます。特に Web ページの印刷時は、設定をそのままに印刷すると、意図したものと違うものを印刷していることがあります。一度印刷プレビューを確認して、印刷を実行していただくようお願いいたします。それでも印刷に不具合が出る場合は、管理補助員へご連絡ください。管理補助員は A 棟 3 階 LL 準備室、B-209 教室後方に待機しています。

【コンピュータ実習室・Macintosh の利用について】

A-302 教室に iMac を 2 台設置しておりますので、こちらをご利用ください。

【コンピュータ実習室・Dr. Beat の導入について】

Dr. Beat は多用途メトロノームであり、研究・就職活動での利用において、需要が限定的であると考えられるため、導入予定はありません。

【コンピュータ実習室の開室時間について】

教室の管理上、1 限目が授業の場合でも 10 分前に開室することとしています。ご了承ください。